

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、以下の問合せ先にお問い合わせ下さい。

① 研究課題名	子宮頸癌あるいは体癌における carbonyl reductase 1 と HLA class I 及び Transgelin-2 と Alpha B Crystallin の発現と病理学的予後不良因子との関連性、新たな予後判定法の確立に向けての後方視的研究		
② 実施予定期間	倫理審査委員会審査承認日（2012年5月31日）～ 2018年3月31日		
③ 対象患者	1989年1月から2016年3月31日までの間に、当院で手術を行った子宮頸がんあるいは子宮体がんの症例を対象とします。		
④ 対象期間	1989年1月1日～ 2016年3月31日		
⑤ 実施診療科	産科婦人科		
⑥ 研究責任者	氏名	杉野 法広	所属 山口大学医学部附属病院
⑦ 使用する資料等	対象の患者さんのカルテ等に記載された治療経過、病理組織検査結果 手術の際に既に摘出した組織のパラフィンブロック		
⑧ 研究の意義	私達のこれまでの研究から、子宮頸部扁平上皮癌(子宮頸癌)又は体癌において carbonyl reductase 1 と HLA class I、及び Transgelin-2 と Alpha B Crystallin の発現の有無により患者さんの術後の予後予測が可能となる可能性を見いだしています。現在、術後治療の必要性は病理学的予後不良因子の有無によって決定されていることから、これらの因子が新たな予後因子となり得ることが分かれば、無用な追加治療を回避できることにつながる可能性があります。		
⑨ 研究の目的	CBR1 と HLA class I 及び Transgelin-2 と Alpha B Crystallin の組織内発現を検討し、今までにない新たな予後を予測するマーカーを確立することを目的とします。		
⑩ 研究の方法	対象期間の間に、当院で手術を行った子宮頸がんまたは子宮体がんの症例を対象とします。各症例について、手術の際に摘出した組織のパラフィンブロックから作成した組織切片におけるCBR1とHLA class I、そしてTransgelin-2とAlpha B Crystallinの発現を免疫組織染色し検討します。これらの組織内発現と病理学的予後因子との関連性、術後の経過（予後）との関連性を検討します。		
⑪ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2017年3月22日	
⑫ 結果の公表	学会発表し、医学論文として公表します。		
⑬ 個人情報の保護	(1) 対象の患者さんのカルテ等に記載された個人情報は、すべて匿名化した上で研究に使用します。 (2) 学会誌や学会での発表等、調査結果を公表する際、個人情報は一切公表しません。 (3) この研究で収集したすべての情報は、この研究の目的以外では使用いたしません。 (4) 収集した患者さんのデータは、研究公表後すべてシュレッダー等で処理した上で廃棄します。		
⑭ 知的財産権	研究結果から知的財産が得られることがありますが、山口大学に帰属します。		

⑮ 利益相反	この研究は、文部科学省科学研究補助金を用いて実施するものです。この試験の実施や報告の際に、金銭的な利益やそれ以外の個人的な利益のために専門的な判断を曲げるようなことは一切ありません。		
⑯ 問い合わせ先	山口大学大学院医学系研究科産科婦人科学 助教 梶邑 匠彌		
	電話	0836-22-2289	FAX 0836-22-2287